人のいはんさまうをうたがはれ
へこゝにうたがひてのちはゆめ
てうあるべけれ
ゆめさまのもとにまゐりて
をこなはるべきまうしろ
あるべし
しんぎうをうたがひ
ふしぎにあるべ
しこれをくしけれ
しかるべきはれば
しかるべきはあるべ
らしてよあきのはれかうしとて
ゆうあるべきくまんのかれの
せんさいなりけるまうけを
ろあるべをゆ
ふなあるべいてゆめにあるべ
たほうてをこなはるべ
ゆめにはのうち
ゆめにはへつはれ
のうちをてうあるべ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わうこ人ハうちうれをこすむし
ねこうはけんしゆきゆふの恋
きちまれ乃ゆきたうはをれを
ふなすいこんやしてきこせ後拾
にまりのものをのれをふあわく
さこほうくもかきもの乃
なこゆちをいこ頼をえ物
らたあれしきん人をうふと拾
所我うくハかすこうすきのまち

山のかをこうすうちのをのをのをひいす
とうちかのんこをほひさし
うかちくこのすこもけいこうち
しをいふれ今ちあやーうかい
うけうこうこの恋をほをてよせハ
れのうくりんかすんとの拾に
れこををまちわをの文とん
拾へうくきにあこれまうこに
まりしきわハかをこうハこ
てきまうあうこをきち

ものきまさこのきりのてけれ
ちまたにこくろ物付のこ
とあるけしきうわさこうろ
ものへ付こ今ものうちたこの
こきいかるけ何ものくちをそわ
れをいうの事きいくと是後こ
付ものの所きいたそのちや
さ事ふかいそのひきのてけ
とてさしいてきれひきのてけ
きりいうよりうてまま

ほうこ人きれきみとある雨いたり
ゆうはとにはどりなりうたうこ
のうてまはほうこ人きれきこ
こうふうとりふなちをちうこ
にきれこいうこ人わけこほはに
れたのゆこのうはたうてきれ
れを今うちをくふ
ちうこいうとちはに
にこのすこ毎れをゆれ
きも

みてなりたいとおもふこころまことに
しるしなりけるけふはよ
所にれいなをいろいろまことに
うしろ人のあるいとくさわけさ
ゆくすゑのこのもとこのもれとうえふ
あるやあるむとおもしあるすら
しるしくちわ今ア
れなおのひとれうさら
すとしらすすぎをし
なりすす

人まれにあるけふはやうく
れわくさきやうふわさハ
人のすゑのやうめさ
あいなる我ちわさて
たこの所しやうくの岸渡
あくれ歌をへなるけすのを
わてにうきわてしくこし
ケしやう
おの四岸すてたゝの今ア

こゝろを拍子にとりてうたゝめるものなれのいろ
のゝこゝろのゝ心のゝをゝめをもとゝして、
こゝろをれすゝこゝてゝそをたゝしきを
ろハをゝのゝんゝろゝ川ゝ也しゝ又ゝ
川むゝれのゝゝこゝしゝろゝと有
七ゝ五ゝ五をゝり十ゝれハ川ゝとゝて
こゝろ拍子にまゝるゝこゝの風さゝ
をゝれゝくゝまゝはゝゆゝしゝふゝこゝろ乃ゝ
八川ゝうゝゝゝこゝゝしゝてゝわゝすゝの志

そゝゝゝんゝわゝさゝれハゝこゝこゝへゝゝゝゝし
ろしハゝゝそゝ拍ゝうゝわゝいゝゝゝ
ゝうゝこゝろゝたゝゝしゝよゝゝくゝちゝゝゝゝゝゝゝ
こゝゝゝゝ歌ハゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

源語之抄書作者考ヘ

一 為家卿

まてこの一、きし

寛政十二校

尊經閣文庫